

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173000035		
法人名	社会福祉法人富良野あさひ郷		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所グループホーム北の峯		
所在地	北海道富良野市中御料地2067の3 (電話) 0167-23-6811		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年10月10日

## 【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 11月 12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	6.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺き平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	420 円
	夕食	480 円	おやつ	30 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団博友会北の峰病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム北の峯は、高齢者・障害者に対する福祉サービス提供主体として、地域における基幹的役割を担ってきた母体法人が、6年前に開設した事業所である。法人本体が築き上げてきた、実績や信頼を活かし、行事や地域との関わりにおいても、法人との連携の上に、実践を積み重ねている。更に、事業所独自の理念を定めたり、市内の他事業所とのネットワーク構築に取り組むなど、事業の新たな展開を模索している。ここで生活する利用者の表情は穏やかで、職員の接し方も自然である。職員は、利用者の高齢化と、認知症の進行という困難に向き合いながら、自分たちで決めた理念を実践しようとする、意欲と姿勢を持っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における課題のうち、事業所便りの発行、健康診断の実施、危険物の保管については、実施及び改善をしている。入浴時間の夜間対応は、未実施ではあるが、時間帯の中での対応の工夫を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を職員全員で行っており、実践に反映している。取り組んでいきたい項目として自らあげた内容は、すでに取り組みを開始している。今後も、更に検討を重ねながら、取組みを継続することが期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進委員会を本年3月に設置し、現在までに隔月で2回開催している。委員会では、事業所に対する地域の理解を深めるよう、事業実践並びに業務統計の報告や説明を行っている。委員からは、利用者の生活ぶりや介護支援の内容等についての質問が出るなど、意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、どの職員でも受けており、特に苦情相談については、管理者と開設以来勤務しているベテランの介護職員が担当している。事業所内並びに外部機関の苦情相談窓口を、重要事項説明書に明記しているほか、ケアプランを家族に送付する際には、苦情や意見を記入する用紙を同封している。また、家族の来訪時には、職員から声かけをして意見等を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所としては、地域とのつながりを重視し、いろいろな機会をとらえて連携を働きかけている。しかし、離農が相次ぐ畑作地帯の只中であり、老人クラブ自体が機能できず、敬老会も行えなくなっている地域の現状に苦慮している。町内会も、住宅地における存在・活動とは異なるが、法人本体と協働して、行事等を利用しながら、地域住民との交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初は、福祉分野の複合的サービスを地域に提供するという、法人の理念を共有していた。開設から4年を経た一昨年、それまでの実践を振り返りながら、職員全員で意見を出し合っ、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で検討して作った理念を、作成時より共有している。それを形骸化させないために、日々の会議等で確認している。また、事業所の中心的位置にあるホールの壁にも、すっきり大書して掲示している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所としては、連携して活動するよう地域に働きかけているが、離農が相次ぐ畑作地帯の只中にあり、老人クラブ自体が機能できず、敬老会も行えない地域の現状に、苦慮している。しかし、法人本体と協働して、行事等を利用しながら、地域住民との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を活用し、毎年1回、管理者を含めた全職員が、個々に事業所の自己評価を行い、それを持ち寄って検討し、事業所全体の自己評価としてまとめている。その結果、刃物等危険物の保管方法の改善などを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年3月、運営推進委員会を発足し、隔月で開催している。当面の主たる目的は、事業所の存在を地域に理解してもらうことと位置づけ、事業実践並びに業務統計の説明を行うとともに、各委員の意見を得る場としている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会のメンバーである、市介護保険課職員は、特養入所判定委員でもあり、普段から法人本体との関連が深い。事業所単独あるいは本体を介して、市との連携をとっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会等で来訪の折には、その都度利用者の近況を伝えている。定期的な情報の伝達として、「ホームだより」を年3回発行するほか、年2回のケアプラン送付の際にも、近況を手紙に書いて知らせている。利用者に特別な変化があった場合は、その都度速やかに電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内並びに外部機関の苦情相談窓口を、重要事項説明書に明記しているほか、ケアプランを家族に送付する際には、意見・苦情等を記入するための用紙を同封している。また、家族の来訪の折にも、意見等を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。わずかな異動例においても、利用者や職員はすぐに打ち解け、利用者の生活に表立った影響は見られない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、年間スケジュールを決めて、毎月1回実施している。内容は、職員が「今、何を知りたいか」に主眼をあて、本人の希望を聞いて企画している。外部研修にも交代で参加するとともに、内部への伝達講習を行い、知識の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富良野市内には、3ヶ所のグループホームがある。現在、3事業所のネットワークを立ち上げる取り組みが進行中であり、当事業所も積極的に参画するよう努めている。また、「地域ケア会議」が隔月で開催されており、その場を利用して、同業者との交流も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ利用者が馴染みやすいように、本人の嗜好や行動特性を家族から聞き、それを事業所での生活に反映するよう工夫している。また、使い慣れた家具や道具、衣服を持ち込むよう促し、本人が安心して暮らせるように計らっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の高齢化や認知症の進行により、一緒に調理するなど難しい状況である中、利用者が関わられることを見極め、声をかけて、味付けを教わったり、昔の歌を教えてもらったり、人生の先輩として「人生相談」に乗ってもらうなどしている。利用者に「これは私の仕事」という認識がある場合は、できる範囲で手伝ってもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴介助や散歩など、職員と利用者が1対1になれる機会を利用して、利用者が、他者がそばにいないと言わないことでも、話せるように配慮しながら、個々の希望を聞くとともに、希望をできるだけ実現するよう努力している。利用者が何かしたそうな時には、すぐに助けられる位置で、付かず離れず見守るようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が来訪した時に、ケアプランについての希望を聞き、プランに対する同意書ももらっている。その際、家族の意見や苦情も書いてもらっている。今後、更に積極的な働きかけの必要性を、検討中である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、年2回、定期的に見直しをしている。それ以外にも、見直しが必要な場合は、申し送りや職員会議で取り上げ、適宜見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は、隣接する法人本体の特養や、デイサービスの施設を利用することができるなど、多様な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のすぐ向かいに、協力医療機関があり、必要な場合には直ちに利用することができる。希望により、それ以外のかかりつけ医に通っている利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで、終末期をケアした経験はない。しかし、希望があれば終末期も受け入れる考えであり、勉強しながら準備をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	大事な事柄は、利用者と職員が1対1の時に、話すようにしている。トイレ誘導の声かけも、大きな声では言わない。利用者が、一人で居室で過ごすことも尊重しており、その場合は、職員が居室に遊びに行くことで、見守りを続けている。記録の管理にも、配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの過ごし方を、尊重するよう心がけている。一例として、ホールのソファの配置を見直し、テレビを見たり新聞を読むなど、利用者それぞれが、空間は共有しながらも、互いに邪魔にならない過ごし方ができるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める給食会議には、利用者も参加している。普段の会話の中で出された希望も、採り入れている。重度化により調理ができる利用者は限られるが、おしぼりを準備したり、盛り付けを手伝い、片付けをするなど、それぞれが自主的にできることをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時に、職員の二人介助が必要な利用者が増えたことにより、入浴時間の枠を決めているが、その時間帯の中で、順番や時間をずらすなどの工夫を行い、できるだけ利用者の希望を尊重するよう努力している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、台所仕事・洗濯・掃除など、慣れた家事の中で「私の役割」と思っていることを行っている。また、誕生会の飾りつけなど、一定の時間をかけ継続して取り組むものは、「生きがいクラブ」という機会を設けて、普段とは違う雰囲気を作るなど工夫して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散策路の散歩、花壇や畑の手入れ・収穫など、広い敷地を活用した屋外活動を採り入れている。また「富良野へそ祭り」への夜間の外出や、ラベンダー祭り・さくらんぼ狩りなど、地域の特性を活かした外出機会も積極的に取り入れて、生活に変化をつける工夫を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関も、日中は開放している。ホールから玄関に続くドアの開閉は、ノブに下げた風鈴で、わかるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を決めている。管理者宅・法人本体・病院・消防署を結ぶホットラインを設置している。避難訓練は、年2回実施している。本年4月には、夜間を想定した訓練を実施している。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表・水分摂取チェック表・排泄チェック表など、摂取と排泄を細かに確認し、記載する書式があり、規定どおり実行している。	○	チェック表が何種類もあり、それぞれの項目ごとにファイリングしている。記入内容は十分であるが、書式を整理統合して簡素化するなどし、職員の労力の軽減にも繋がるよう工夫することが期待される。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁面のうち、屋外に面した壁には、一面にガラス窓を取り付け、十分な採光と通風に考慮している。窓からは、野菜畑と花壇が見渡せ、その奥にはシラカバを中心とした林が続いている。網戸の入った高窓や、空調設備も完備し、居心地良く過ごせる共有空間になっている。	○	すでにソファの配置を工夫するなど、よりよい空間作りに努力しているが、利用者の半数近くが車椅子を利用している現状を考え、複数あるソファの数を見直すなどし、車椅子利用者のホールにおける使い勝手の向上に取り組むことを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れたタンス・生活用品・衣類などを置いている。利用者は、持ち込んだ品々を自分のものであると理解し、安心して使っている。		

※  は、重点項目。